

# KENWOOD

特定小電力トランシーバー

## TCP-U90F

---

### 取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。  
本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation

# 目次

安全上のご注意 .....	4
---------------	---

## ご使用の前に

ご使用にあたって .....	10
準備する .....	12
付属品を確認する .....	12
電池について .....	12
バッテリーパックの入れかた .....	14
乾電池の入れかた .....	15
充電のしかた .....	16
DC 電源端子の接続 .....	17
ベルトフックを取り付ける .....	18
ストラップを取り付ける .....	18
スピーカー/マイクロホン端子にオプションを接続する .....	19
各部の名称 .....	20
本体 .....	20
表示部 .....	22

## 基本操作

通話する(ノーマルモード) .....	24
電源を入れる .....	24
送信する .....	24
受信する .....	25
電源を切る .....	25

## 応用操作

運用モードの確認 .....	26
通話する(同時通話モード) .....	27
通話する(レピーターアクセスモード) .....	29

グループで通話する(グループモード) .....	32
通話を聞かれないようにする(スクランブルモード) .....	34
モニター .....	36
誤ってキーが押されるのを防ぐ(キーロック) .....	37
相手をコールトーンで呼び出す .....	38
セレコールを使う .....	39
ステータスメッセージ .....	41
サイレントヒアリングモード .....	42
自局レピーターモード .....	43
ファンクション設定 .....	44
ファンクション設定機能一覧 .....	44
その他の機能 .....	50

## その他

故障かな?と思ったら .....	53
初期設定の状態に戻す(オールリセット) .....	55
オプション(別売品)について .....	56
イヤホン付きマイクロホン(EMC-5F)について .....	57
スピーカーマイクロホン(SMC-34)について .....	57
保証とアフターサービス .....	58
仕様 .....	59

## 説明上の注釈表記について



このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。



このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

**販売店** と表示されている箇所は、販売店ででの設定により使用可能な機能です。詳細については、お買上げの販売店にお尋ねください。

# 安全上のご注意

## 絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。



**危険**

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



**警告**

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例



⚠ 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容を示しています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをACコンセントから抜け）を示しています。

- ・ お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## ⚠危険

### 使用環境・条件

- 引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリン等の可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。



### バッテリーパックの取扱について

バッテリーパックは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

- 充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。
- 専用充電器以外では充電しないでください。
- 本機以外の機器に取付けしないでください。
- 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解しないでください。
- 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 水の中に落した場合は使用しないでください。



- 液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。



- 液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



## ⚠ 警告

### 使用環境・条件

- 交通安全上、運転しながら交信するのはおやめください。
- 電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では、絶対に使用しないでください(電源も入れないでください)。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたすおそれがあります。
- 本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。



### AC アダプターの取扱について

- AC100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグはACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
- 電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。



### 使用方法について

- アンテナのごく近くに人・動物・ペット等がいるときは、電波を発射しないでください。やけど、目の異常の原因となります。
- 機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカークロホン等のケーブルを首にかけないでください。怪我の原因となります。



- 本機に水が入らないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。
- 水などで濡れやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当たってけがを負わせたり、物に当たって無線機が破損することがあります。



## 異常時の処置について

- 内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
- 落下などにより破損した部品には直接触らないでください。怪我の原因となります。
- 煙が出たら、すぐに電源スイッチを切り、バッテリーパックを外し、充電中は電源プラグをACコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中は電源プラグをACコンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。



## 保守・点検






- 本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。





お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

## ⚠️ 注意



### 使用環境・条件

- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。 
- 直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。 
- 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 

### 充電器の取扱について

- 充電器のコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。 
- 充電器の電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っばると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。 

### 使用方法について

- アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。 
- スピーカー/マイクロホン端子にはオプションのイヤホン付きマイクロホンやヘッドセット、スピーカーマイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。 



- 乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用した時に静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。
- 旅行などで長期間使わないときは、電源スイッチを切り、バッテリーパックを外して、ACアダプターの電源プラグをACコンセントから抜いてください。
- イヤホンを使用するときは、電源を入れる前に音量ツマミを下げてください。聴覚障害の原因となることがあります。



## 保守・点検

- お手入れの際は、電源スイッチを切り、バッテリーパックや乾電池を外して、ACアダプターの電源プラグをACコンセントから抜いてください。
- 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。



## 電波法に関するご注意

- 本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

# ご使用にあたって

- 本機は4つの運用モードを搭載した、特定小電力トランシーバーです。ノーマルモードでは20チャンネルに対応し、従来の9チャンネルと11チャンネルのどちらも使用できます。同時通話モードやサイレントヒアリング、レピーターアクセスモードでは27チャンネルに対応し、従来の9チャンネルと18チャンネルのどちらも使用できます。

## ◆ ノーマルモード(シンプレックス) <SP>

直接トランシーバー同士で送信/受信を切り替えて通話するモードです。



## ◆ 同時通話モード(フルデュプレックス) <Fdp>

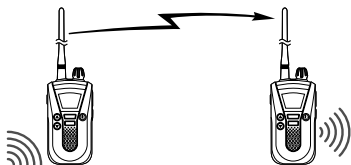
直接トランシーバー同士で電話機のように送信/受信を同時に通話できるモードです。

同時通話モードを使用するには、イヤホン付きマイクロホンEMC-5FまたはヘッドセットKHS-21の接続が必要です。(その他のイヤホン付きマイクロホンやスピーカーマイクロホンは使用できません。)



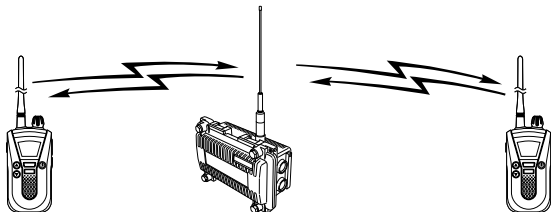
## ◆ サイレントヒアリングモード <SH>

マイクの感度を高くして連続送信するモードです。離れた部屋のように別のトランシーバーでモニターすることができます。



◆レピーターアクセスモード(セミデュプレックス) **中継** <Sdp>

レピーター(中継機)を介して送信/受信を切り替えて通話するモードです。通話できる範囲が広がります。



- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。<トランシーバー同士でハイパワー送信の場合> 建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。

- ・市街地： 100～200 m
- ・高速道路上の車と車： 300～500 m
- ・見通しのよい場所： 1～2 km

- 本機単体はIP-55規格に準拠した製品です。多少の水がかかっても問題はありますが、蛇口からの水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。なお、スピーカー/マイクロホン端子カバーやDC電源端子カバーを外したり、電池カバーが正しく閉まっていない場合は防水性能に準拠できなくなります。

IP-55(防塵・防噴流形): 内径6.3mmのノズルにより全方向から毎分12.5リットルの噴流水を3分間かけても有害な影響がでない。

- スピーカー/マイクロホン端子にオプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で固定している場合はIP-54規格に準拠します。(イヤホン(HS-9)を使用するときは、付属のイヤホンキャップを取り付けてください。)

なお、オプション自体には防水性能はありませんので、水がかからないように注意してください。

IP-54(防塵・防沫形): 全方向からの水の飛沫によっても有害な影響がでない。

- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。



- テレビ、ラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

# 準備する

## 付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

・ 充電式リチウムイオンバッテリーパック(UPB-4L) .....	1
・ 充電器(W08-0986-XX) .....	1
・ ACアダプター(W08-0987-XX) .....	1
・ ベルトフック(J29-0691-XX) .....	1
・ ハンドストラップ(J69-0342-XX) .....	1
・ イヤホンキャップ(B09-0698-XX) .....	1
・ マイクプラグ固定金具(J21-8516-XX) .....	1
・ 保証書 .....	1
・ サービス一覧表 .....	1
・ 取扱説明書(本書) .....	1

## 電池について

### 電池の使用可能時間の目安

#### ■ リチウムイオンバッテリーパックの使用可能時間

ノーマルモード：約 **30** 時間(外部スピーカー)\*1/約 **22** 時間(内部スピーカー)\*1  
同時通話モード：約 **26** 時間(送信出力 10 mW)\*2/約 **10** 時間(送信出力 1 mW)\*3

#### ■ アルカリ乾電池の使用可能時間

ノーマルモード：約 **13** 時間(外部スピーカー)\*1/約 **8** 時間(内部スピーカー)\*1  
同時通話モード：約 **13** 時間(送信出力 10 mW)\*2/約 **5** 時間(送信出力 1 mW)\*3

#### ■ オキシライド乾電池の使用可能時間

ノーマルモード：約 **14** 時間(外部スピーカー)\*1/約 **8** 時間(内部スピーカー)\*1  
同時通話モード：約 **12** 時間(送信出力 10 mW)\*2/約 **4** 時間(送信出力 1 mW)\*3

\*1：測定条件：送信 6 秒 / 受信 6 秒 / 待ち受け 48 秒

(外部スピーカー：45 mW、内部スピーカー：180 mW)

\*2：測定条件：送受信 3 分 / 待ち受け 12 分(EMC-5F 使用時(10 mW))

\*3：測定条件：連続送信(EMC-5F 使用時(10 mW))

※電池の使用可能時間は使用環境により上記とは異なる場合があります。

### 電池の残量表示について

- 電池の残量目安を三段階で表示します。

1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピー」と 4 回鳴り、電池が消耗していることをお知らせします。早めに電源を切りバッテリーパックを充電するか、予備と交換してください。(乾電池を使用している場合は、2 個点灯になったら新しい乾電池に交換してください。) 電池が消耗していると、電源を入れるたびに警告音が鳴ります。



3個点灯  
(満充電時)



2個点灯  
(充電準備)




1個点灯  
(要充電時)

## バッテリーセーブについて

- 電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約5秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作が行われるとバッテリーセーブは解除されます（→50ページ）。

## バッテリーパックの特性について

- 充電／放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電／放電を行ったり、無線機を使用すると寿命が短くなります。また、高温状態で保管も劣化の進行が早まります。車の中に入れておいたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- バッテリーパックを高温状態で放置すると使用できなくなります。電池パックが冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保存後は、電池容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。



使用後は  
リサイクル  
協力店へ

Li-ion 充電式電池

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。リサイクルにご協力をお願いいたします。

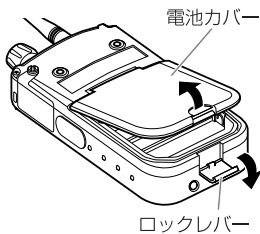


- バッテリーパック、充電器、ACアダプター、ベルトフックは専用の付属品を使用してください。
- バッテリーパックはお買い上げ時は満充電にしておりません。お使いになる前に必ず満充電にしてご使用ください。
- 長時間お使いにならないときは、バッテリーパックを本機から取り出してください。
- バッテリーセーブは、オートチャンネルセレクト中とモニター中は動作しません。
- バッテリーパックの端子をショートさせたり、バッテリーパックを火中に投げたりしないでください。また、バッテリーパックを分解しないでください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーパックの寿命です。このまま充電／放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。

## バッテリーパックの入れかた

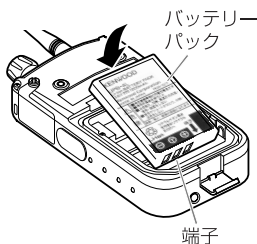
### 1 電池カバーを取り外す

ロックレバーを解除して、電池カバーを外します。



### 2 バッテリーパックを取り付ける

バッテリーパックは、ラベル面を上にして、端子を先に当ててから取り付けます。

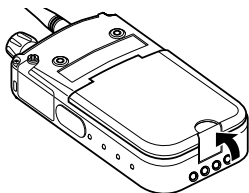


### 3 電池カバーを取り付ける

電池カバー上側を本体の溝に合わせて、ロックレバーを「カチッ」と音がするまで、押し込みます。

#### バッテリーパックを取り外す

手順 **3** → **1** へ、取り付けと逆の手順でバッテリーパックを取り外します。

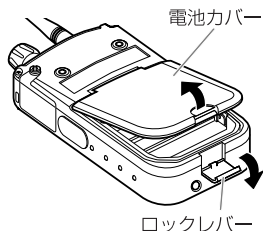


- 長時間使用しない場合は、本体からバッテリーパックを取り外してください。

## 乾電池の入れかた

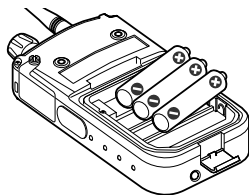
### 1 電池カバーを取り外す

ロックレバーを解除して、電池カバーを外します。



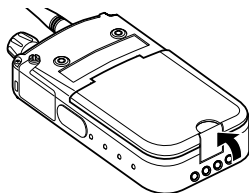
### 2 乾電池を取り付ける

単四型のアルカリまたはオキシライド乾電池3本を＋を間違わないように取り付けます。



### 3 電池カバーを取り付ける

電池カバー上側を本体の溝に合わせて、ロックレバーを「カチッ」と音がするまで、押し込みます。



#### 乾電池を取り外す

手順 3→1へ、取り付けと逆の手順で乾電池を取り外します。



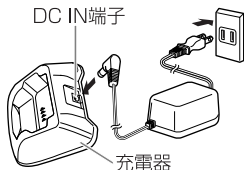
- 乾電池は、3本とも同じ種類の新しい電池を使用してください。異なる種類や古い電池は使用しないでください。
- 単四型充電式電池は使用しないでください。
- 長時間使用しない場合は、本体から乾電池を取り外してください。

## 準備する

## 充電のしかた

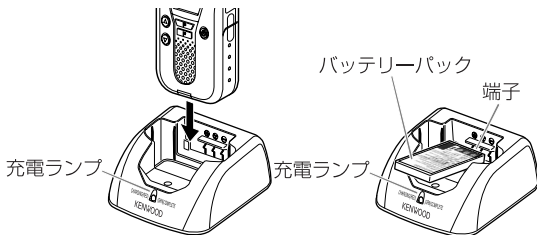
はじめてお使いになるときや、使用後は必ず充電してください。

- 1 ACアダプターのDCプラグを充電器のDC IN端子に差し込む
- 2 ACアダプターのACプラグをACコンセントに差し込む



- 3 無線機またはバッテリーパック単体を充電器に差し込む

無線機本体を充電器に差し込む時は、電源を切ってください。  
充電ランプが赤色に点灯します。



- 4 充電ランプが緑色に点灯して、充電が完了する

本機またはバッテリーパックを抜き取ります。充電時間の目安は4時間です。

## 充電ランプの表示について

赤色：充電中

緑色：充電完了

充電ランプが点灯しない、または赤色点滅する場合は・・・

- 本体に乾電池が入っている→バッテリーパックに入れ替えてください。
- バッテリーパックが異常である→新しいバッテリーパックを使用してください。
- 端子が接触不良になっている→端子を綿棒や乾いた布で拭いてから、再度充電してください。
- バッテリーパックが極端に高温または低温になっている→室温に戻してから、再度充電してください。



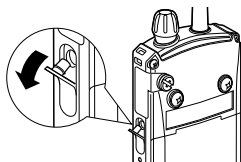


- 必ず専用のリチウムイオンバッテリーパックを使用して充電してください。指定以外のバッテリーパックを用いて充電すると故障の原因になります。
- 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
- 乾電池を入れているときは、充電器に差し込まないでください。
- 本体やバッテリーパックが濡れたままで充電すると、故障の原因になります。本体やバッテリーパックが濡れているときは、乾いた布でよくふき取ってから充電器に差し込んでください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。このまま充電／放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。
- 充電器の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
- 充電器の近くで無線機を使用すると、充電器が誤動作するすることがあります。

## DC 電源端子の接続

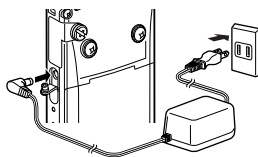
本機を自局レピーターやサイレントヒアリングモードで長時間使用する場合は、付属の AC アダプターを本機の DC 電源端子に接続してください。

### 1 DC 電源端子カバーを開く



### 2 AC アダプターの DC プラグを 本体の DC 電源端子に差し込む

### 3 AC アダプターの AC プラグを AC コンセントに差し込む



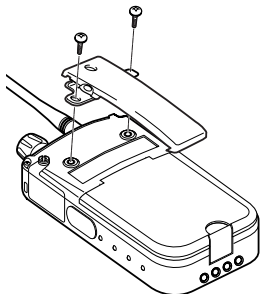
- バッテリーパックや乾電池は取り外してください。
- DC 電源端子を使用時は防水効果はありません。
- DC 電源端子を使用してのバッテリーパック充電はできません。

準備する

## ベルトフックを取り付ける

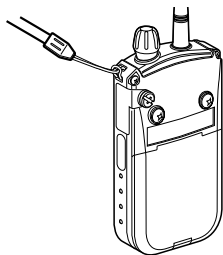
ベルトフックと一緒に同梱されている取り付けネジ(3 × 4 mm)を使用して取り付けます。

付属のベルトフックと本体のネジ穴を合わせて、付属のネジで止めます。



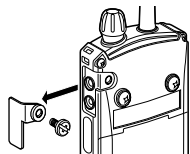
## ストラップを取り付ける

本体上部のストラップ取り付け穴に、付属ストラップの紐を取り付けます。

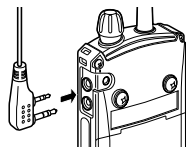


**スピーカー/マイクロホン端子にオプションを接続する**  
 本機の防水効果を維持するために、イヤホンやイヤホン付マイクロホン、ヘッドセット、スピーカーマイクロホンを取り付けるときはマイクプラグ固定金具を必ず取り付けてください。

- 1** 本体右部のスピーカー/マイクロホン端子カバーのネジをコイン等を使用してゆるめ、カバーを取り外す



- 2** オプションのプラグを接続する



イヤホン(HS-9)を取り付けるときは付属のイヤホンキャップをプラグに取り付けてから接続します。

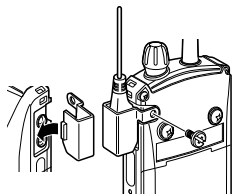
プラグ



イヤホンキャップ

- 3** マイクプラグ固定金具取り付け

金具前面にある爪をスピーカー/マイクロホン端子部分の溝に合わせてから、ネジをコイン等を使用して確実に締め付けてください。



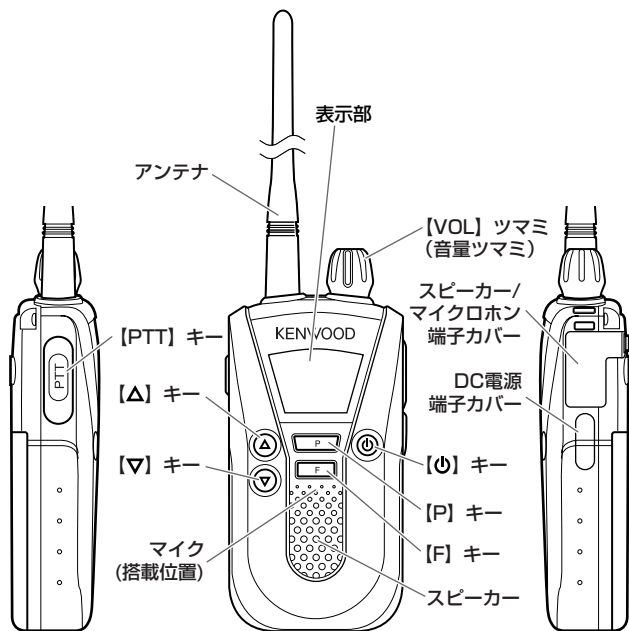
- マイクプラグ固定金具やイヤホンキャップを取り付けてないときは、スピーカー/マイクロホン端子は防水にはなりません。
- オプションを取り外すときは、プラグ部をしっかりとって取り外してください。ケーブルを持って取り外すと、断線の原因になります。

# 各部の名称

## 本体

ご使用前に

各部の名称




キーの名称	通常の動作
<b>【Ⓞ】</b>	・電源のON/OFF
<b>【PTT】</b>	・送信 ・コールトーン1の送出(+ <b>【▽】</b> ) ・コールトーン2の送出(+ <b>【△】</b> )
<b>【△】</b>	・チャンネルアップ(1秒以上押すと早送り) ・グループ番号のアップ(1秒以上押すと早送り) ・スクランブル機能のON/OFF(スクランブル機能設定時) ・オートチャンネルセレクトの開始(1秒以上) (オートチャンネルセレクトがONに設定されている時)
<b>【▽】</b>	・チャンネルダウン(1秒以上押すと早送り) ・グループ番号のダウン(1秒以上押すと早送り) ・スクランブル機能のON/OFF(スクランブル機能設定時) ・オートチャンネルセレクトの開始(1秒以上) (オートチャンネルセレクトがONに設定されている時)
<b>【F】</b>	・グループ番号/スクランブル設定の呼出し (グループ番号→スクランブル→チャンネルの順に選択) ・キーロックの設定/解除(+ <b>【Ⓞ】</b> )
<b>【P】</b>	・モニター機能のON/OFF ・ファンクション設定の呼出し(+ <b>【Ⓞ】</b> )

## 表示部



- 電源を入れてから5秒間表示部の照明が点灯します。【PTT】以外のキー操作を行うと、再び点灯します。【PTT】以外のボタンを押し続けている間も、点灯し続けます。
- 「振」の表示は、本機では使用する機能はありません。

表示	説明
	電池の残量を表示
	自局レピーターモード中に点灯
	レピーターアクセスモード中に点灯
	サイレントヒアリングモード中に点灯
	同時通話モード中に点灯
	キーロックがONに設定されているときに点灯
	ローパワー送信に設定されているときに点灯
	送信中に点灯
	受信中に点灯
	VOXがONに設定されているときに点灯
	スクランブルがONに設定されているときに点灯
	グループ番号表示 セレコールIDリスト番号表示  ファンクション設定状態表示
	送信／受信チャンネル番号表示 セレコール種別表示  ファンクション設定機能表示

# 通話する(ノーマルモード)

相手の方と同じチャンネル番号を設定し、送信／受信を切り替えながら通話します。あらかじめ、運用モードを確認しておきます(→26ページ)。

## 電源を入れる

### 1 【**⏻**】を1秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

### 2 【VOL】を回し、音量を上げる

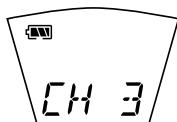
### 3 【**△**】または【**▽**】を押す

チャンネル番号を合わせます。

【**△**】または【**▽**】を1秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。

従来の11チャンネル機と交信するときは、1～11に合わせます。

従来の9チャンネル機と交信するときは、h1～h9に合わせます。



例: 3チャンネルに合わせた場合



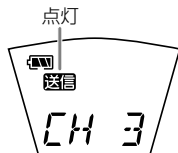
例: h3チャンネルに合わせた場合

## 送信する

### 4 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。

マイク部から口を5cmくらい離してお話してください。



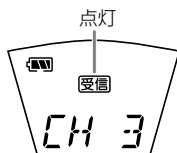
- 「受信」が点灯中に【PTT】を押すと、「プー」と鳴り送信できません。相手の方からの送信が終了し、「受信」が消灯したら【PTT】を押して送信します。



## 受信する

### 5 【PTT】 から指を離す

受信待受の状態では相手から送信されると、「受信」が点灯します。



手順 4 と 5 の操作を繰り返して、通話します。

## 電源を切る

### 6 【⏻】 を 1 秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

## 通話時間の制限について・・・

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通話終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

続けて通話するときには、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手を出してください。



- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- 「近距離(約 10m 以内)に他のチャンネルを使用しているトランシーバーがあると、h7 と 1、h8 と 2、h9 と 3 チャンネルの組み合わせで混信をおこす場合がありますので、多数のグループが近距離で運用する場合は、同一グループチャンネル(h1 ~ h9 または 1 ~ 11 チャンネル)内での運用をお勧めします。
- キーロックを ON にすると、通話中に間違えてキーを押してもチャンネルやモードは変わりません<→ 37 ページ>。



- 本機には、基本通話の他に 2 種類の通話方法があります。必要に応じて設定してください。通話のしかたは基本通話と同じです。  
グループモード…仲間どうして通話したいとき<→ 32 ページ>  
スクランブルモード…他の人に通話を聞かれたくないとき<→ 34 ページ>
- ノーマルモードでは、自動的に空きチャンネルを探す、オートチャンネルセレクト機能が使用できます<→ 48 ページ>。

# 運用モードの確認

本機には、次の4つの運用モードがあります。使用目的により、どちらのモードでも選択することができます<→44ページ>。


## ノーマルモード

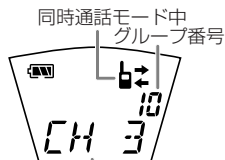
本機どうして送信と受信を交互に行ない通話する運用モードです。



チャンネル番号

## 同時通話モード

本機どうして送信と受信を同時に行ない通話する運用モードです。<「」が点灯する>



チャンネル番号

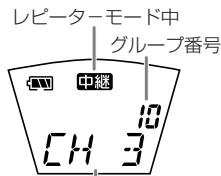
## レピーターアクセスモード

レピーター(中継機)を介して相手局と通信を行う運用モードです。<「中継」が点灯する>。

本機の通話エリアが拡大されます。

本機どうして直接通信することはできません。


本機をレピーターとして設定(自局レピーターモード)した場合は「自中継」が点灯します<→43ページ>。



チャンネル番号

## サイレントヒアリングモード

マイクの感度を高くして連続送信する運用モードです。

<「」が点灯する>



- 相手またはグループ全員が同じ運用モードに設定されてないと通信できません。
- レピーターアクセスモードに設定したときは、オプションのレピーターを併用、または本機の自局レピーターモードを使用しないと通話できません。

# 通話する(同時通話モード)

同時通話モードで通話するには、EMC-5F や KHS-21 の接続が必要です。また、双方のグループ番号<→32ページ>を合わせておきます。

## 電源を入れる

### 1 【**⏻**】 を 1 秒以上押す

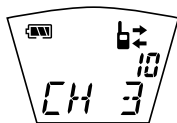
電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

### 2 【VOL】 を回し、音量を上げる

### 3 【**▲**】 または 【**▼**】 を押す

チャンネル番号を合わせます。

【**▲**】 または 【**▼**】 を 1 秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。



例：3cH、グループ 10  
に合わせた場合

## 相手を呼出す

### 4 【PTT】 を押す

※ EMC-5F 使用時は、EMC-5F の PTT スイッチを操作してください。

呼出し音が鳴ります。

## 呼出されたら

### 5 【PTT】 を押す

呼出し音が鳴ったら 10 秒以内に 【PTT】 を一度押します。

### 6 お互いに 【PTT】 から指を離して通話する

※ EMC-5F 使用時は、EMC-5F の PTT スイッチを操作してください。

## 同時通信を終了する

### 7 【PTT】をもう一度押す

※ EMC-5F 使用時は、EMC-5F の PTT スイッチを操作してください。

通話が解除されます。

## 電源を切る

### 8 【⏻】を1秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

## 通話時間の制限について・・・

本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通話終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

同時通話モードでは、送信停止2秒後に現在のチャンネルが空いている場合は、自動的に通話を再開します。

- ローパワー送信での通信では、通話時間の制限はありません。



- EMC-5F や KHS-21 以外のイヤホン付きマイクロホンやスピーカーマイクロホンでは同時通話モードは使用できません。
- 同時通話モードではEMC-5FやKHS-21を接続しないで【PTT】を押した場合は、送信禁止になります。
- 同時通話モードで音声途切れやすい時はファンクション設定の「デュプレックス保持時間」を変更してください<→49ページ>。

# 通話する(レピーターアクセスモード)

レピーターアクセスモードで通話するには、双方のチャンネルとグループ番号<→32ページ>をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。

## 販売店

使用するレピーターの機種により、レピーターアクセスタイプ(UBZ-RG27(TCP-U90F)、TCB-U700)を販売店にて設定する必要があります。

## 電源を入れる

### 1 【**⏻**】を1秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

### 2 【VOL】を回し、音量を上げる

### 3 【**▲**】または【**▼**】を押す

チャンネル番号を合わせます。

【**▲**】または【**▼**】を1秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。従来の18チャンネル機と交信するときは、1～18に合わせます。

従来の9チャンネル機と交信するときは、h1～h9に合わせます。



例：3cH、グループ10  
に合わせた場合



例：h3cH、グループ10  
に合わせた場合

## 送信する

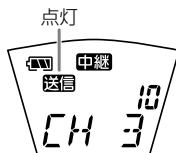
### 4 【PTT】 を押し続ける

レピーターアクセスを確認します。  
アクセス音(ピッ)が鳴ったら【PTT】を押した  
ままで、手順5へ移ってください。  
エラー音(ピッピッピッ…)が鳴ったら手順4の  
操作を繰り返します。

### 5 【PTT】 を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。  
マイク部から口を5cmくらい離してお話してく  
ださい。

アクセスが外れたら、再度手順4から操作してく  
ださい。

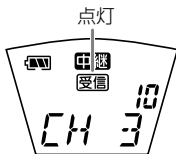


## 受信する

### 6 【PTT】 から指を離す

受信待受の状態では相手から送信されると、「受信」  
が点灯します。

手順5と6の操作を繰り返して、通話します。



## 電源を切る

### 7 【⏻】 を1秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

**通話時間の制限について・・・**

本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通話終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

**続けて通話するときは、送信停止2秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。**

- ローパワー送信での通信では、通話時間の制限はありません。



- レピーターアクセスモードに設定すると自局のチャンネル番号とグループ番号がレピーターのチャンネル番号とグループ番号に一致したときのみ通信可能となります。
- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方とともに、他のチャンネル番号を設定してください。
- レピーターアクセスモードで音声が入切れやすい時はファンクション設定の「レピーター保持時間」を変更してください<→49ページ>。

# グループで通話する(グループモード)

他のグループと同じチャンネルで交信している場合、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間どうしでグループモードを設定しておく、混信がなくなって快適に通話ができます。

## 設定する

### 1 【F】を1秒以上押す

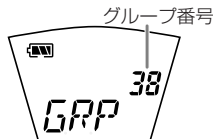
「GRP」と表示され、現在の設定が表示されます。

※ 同時通話モードでは、現在設定されている番号が表示されます。



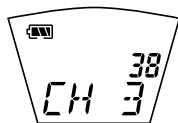
### 2 【Δ】または【▽】を押す

「1~38」から選んでください。【Δ】または【▽】を1秒以上押し続けると、押している間グループ番号は早送りされます。



### 3 【P】または【PTT】を押す

チャンネル表示に戻ります。



#### 販売店

二面待ち機能<→52ページ>を設定している場合は2つのグループ番号の選択が可能です。(ノーマルモード運用時のみ)



## 解除する

- 1 【F】を1秒以上押す
- 2 【△】または【▽】を押す

「OFF」を選びます。

※ 同時通話モードでは「OFF」は選択できません。



- 3 【P】または【PTT】を押す

チャンネル表示に戻ります。



応用操作



- 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、「受信」が点灯します。この時に【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。
- バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返し行なうため、「受信」が点滅することがあります。
- レピーターアクセスモードで使用中にグループモードを解除すると、レピーター(中継器)は動作しなくなります。グループモードを解除する場合、レピーターのグループ番号もOFFに設定してください。
- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。



- 10秒以上操作を行わない場合、手順2で選択した状態が自動的に設定されます。
- 一度設定したグループ番号は、全チャンネル共通で使えます。

グループで通話する(グループモード)

## 通話を聞かれないようにする(スクランブルモード)

グループモード時にスクランブルモードを設定すると、スクランブルモードを設定していない人は会話を聞き取れなくなります。

あらかじめグループ番号を設定してください<→ 32 ページ>。

### 設定する

**1** 【F】 を 1 秒以上押す

**2** 【F】 を 1 回押す

「SCR」と表示され、現在の設定が表示されます。



**3** 【△】 または 【▽】 を押す

「on」を選びます。

「秘」表示が点灯します。



**4** 【P】 または 【PTT】 を押す

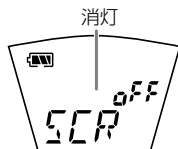
チャンネル表示に戻ります。



## 解除する

- 1 【F】を1秒以上押す
- 2 【F】を1回押す
- 3 【△】または【▽】を押す

「OFF」を選びます。  
「秘」表示が消灯します。



- 4 【P】または【PTT】を押す
- チャンネル表示に戻ります。



- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。
- グループ番号とスクランブルモードが一致した場合、第三者でも通信を傍受できます。高度な機密を要する通話では、本機のご使用をお薦めいたしかねます。



- グループモードを OFF にすると、スクランブルモードも OFF になります。
- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。

# モニター

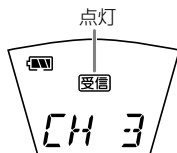
電波が弱いときに、スケルチを強制的に開き、信号の状態をモニターすることができます。また、音量を調整するときにも使用できます。

## モニターする

### 【P】を押す

押し続けている間「受信」が点灯し、モニター機能が動作します。

信号を受信していないときはザーという雑音がかかります。音量を調整するときの目安にします。



## 解除する

### 【P】を離す

スケルチが閉じて、「受信」が消灯します。

### 販売店

モニターの動作は設定により動作を変えることができます。

トグル動作：

【P】を押すとモニター機能がONして、もう一度【P】を押すとモニター機能がOFFになります。

モーメンタリー動作：(購入時の設定)

【P】を押している間モニター機能がONします。

# 誤ってキーが押されるのを防ぐ(キーロック)

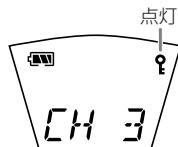
間違えてチャンネルやグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができます。

## 設定する

- 1 一度電源を切る
- 2 【F】 を押しながら 【⏻】 を押して電源を入れる

「🔑」表示が点灯します。

キーロックが設定され、【Δ】 【▽】 【F】 キーは動作しなくなります。

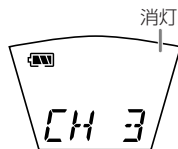


## 解除する

- 1 一度電源を切る
- 2 【F】 を押しながら 【⏻】 を押して電源を入れる

「🔑」表示が消灯します。

キーロックが解除されます。



- キーロック中でも以下の機能は動作します。
  - 電源 ON / OFF
  - 送信
  - コールトーン送出
  - キーロック解除
  - ファンクション設定
  - オールリセット
  - モニター ON / OFF
- 【P】 キーにモニター以外の機能が設定されている場合は、【P】 キーもキーロックされます。🏪販売店
- 【⏻】 と【PTT】 以外のキーをロックする、スーパーロック機能も設定できます。🏪販売店

# 相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

## コールトーン1で呼び出すとき

**【PTT】を押したまま【▽】を押す**

押している間コールトーン1が送信されます。

## コールトーン2で呼び出すとき


**【PTT】を押したまま【△】を押す**

押している間コールトーン2が送信されます。



- セレコールでは、コールトーンを使用できません。



- 本機の【P】キー、またはマイクロホンの【1】、【2】、【3】のキーに、コールトーン3-1、コールトーン3-2、グループBが設定してある場合は、それらのキーを押してコールトーンを送出することができます。また、コールトーンの音色を変更することもできます。  販売店

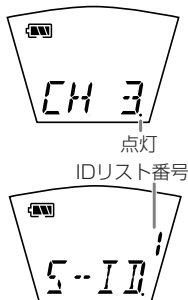
# セレコールを使う

セレコールを使用すると、個別、グループ、グループ代表者、または全局一斉にと自由を選択して呼び出すことができます。また、ステータスメッセージを使用することもできます< 41 ページ>。  
セレコールモードがONに設定されている場合は、チャンネル表示右下のドットが点灯します。

## 呼び出す

### 1 【P】を押す

ID リストを表示します。  
ID リスト番号にセレコール名称が登録されている場合は、セレコール名称が表示されます。



### 2 【△】または【▽】を押す

呼び出す ID リストを選択します。

#### 個別呼び出し

相手局を個別に呼び出して通話できます。「ID」が表示されます。

#### グループ呼び出し

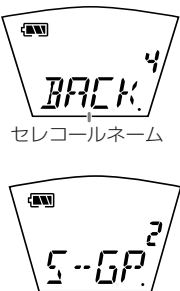
グループを呼び出して、グループ内すべての相手と通話できます。「GP (GP)」が表示されます。

#### グループ代表呼び出し

違うグループの同じ ID の相手呼び出して通話できます。「SP (SP)」が表示されます。

#### 一斉呼び出し

すべての相手局を呼び出して、すべての相手と通話できます。「AL (AL)」が表示されます。



応用操作

セレコールを使う

### 3 【PTT】 を押す

呼び出しが開始されます。  
相手が受信すると呼び出し音が鳴り、通話できます。

#### 受信する

#### 呼び出し音が鳴る

呼び出された相手と通話できます。



- 通話中の局を呼び出すことはできません。
- TCB-U700を使用している時は、セレコールIDが一致しなくても、グループ番号が一致した場合にレピーターが接続動作しますが、通話はできません。
- セレコール使用時には、二面待ち機能は動作しません。



## ステータスメッセージ

個別呼出し時に1～8までのメッセージ番号を送ることができます。また、あらかじめメッセージ番号に登録した定型文を表示することもできます。

### ステータスメッセージを送る

#### 1 【P】を押す

IDリストを表示します。

#### 2 【△】または【▽】を押す

呼び出すIDリストを選択します。

#### 3 【P】を押す

メッセージ番号が表示されます。

メッセージ番号に定型文が登録されている場合は、定型文が表示されます。

#### 4 【△】または【▽】を押す

送りたいメッセージ番号を選択します。

#### 5 【PTT】を押す

メッセージの送信が開始されます。  
メッセージが相手に届いたときは「COMP」と表示されます。2回リトライしても相手に届かない場合は「FAIL」と表示されます。



### ステータスメッセージを受信したら

#### 1 「RECV」と表示した後、メッセージ番号が表示されます。

メッセージ番号に定型文が登録されている場合は、定型文が表示されます。

#### 2 【P】を押す

チャンネル表示に戻ります。  
モードリセットタイマーが設定されている場合は、【P】を押さなくても設定時間後にチャンネル表示に戻ります。



# サイレントヒアリングモード

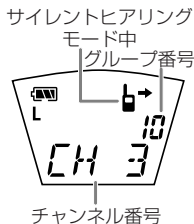
サイレントヒアリングモードは、PTTを押し続けなくても送信を続ける機能です。マイクの感度が高くなり、離れた部屋のように別のトランシーバーでモニターすることができます。

チャンネルは1～18を使用してください。また、送信側、受信側のグループ番号も合わせてください。

## 送信を開始する

### 送信する側の【PTT】を押す

送信を開始します。



## 送信を止める

### 送信する側の【PTT】をもう一度押す



- h1～h9チャンネルでは連続送信はできません。3分間で送信が終了します。
- サイレントヒアリングモードでは送信出力はローパワー固定になります。
- 送信側のスピーカーは常にOFFになり、モニター側から送信しても、音声は聞こえません。
- 最大12時間で送信は終了します。(初期設定は8時間で、時間は販売店にて変更可能です。)。また、送信終了前に告知音が鳴ります。再度送信したい時は【PTT】を押します。

# 自局レピーターモード

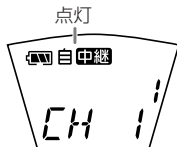
本機をレピーターとして使用します。

無線機からレピーターとしての本機にアクセスする方法は「通話する(レピーターアクセスモード)」<→29ページ>をご覧ください。

設定する

- 1 一度電源を切る
- 2 【PTT】と【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

「自中継」と表示され本機がレピーターとして動作します。



解除する


- 1 一度電源を切る
- 2 【PTT】と【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

自局レピーターモードが解除されます。

応用操作

自局レピーターモード



- 自局レピーターモードで動作している場合は、ファンクション設定で運用モードを切り替えても、自局レピーターモードは解除されません。他の運用モードに切り替える場合は、自局レピーターモードを解除してください。
- 同時通話モードでレピーター運用するには連結レピーターモードでの運用になります。  <→52ページ>

# ファンクション設定

本機では通常の機能のほかに、以下のような機能が設定できます<詳細は46～49ページ>。

## ファンクション設定機能一覧

機 能	表示	設定範囲
表示部の照明動作を設定する	<b>BLIT</b>	AUTO/ON/OFF
確認音を鳴らさないようにする	<b>BEEP</b>	ON/OFF
自動で電源を切る	<b>APD</b>	ON/OFF
運用モードを切り替える	<b>MODE</b>	SP/SDP/ FDP/SH
VOXの感度を設定する	<b>VOX</b>	OFF/1～5
会話の最後が途切れないようにする (VOX遅延時間)	<b>VDLY</b>	0.3/0.5/1.0/ 1.5/3.0
スケルチレベルを調整する	<b>SQL</b>	OFF/1/2/3
送信出力を切り替える	<b>TXPW</b>	H/L
自動で空きチャンネルを探す	<b>SCAN</b>	ON/OFF
自動で空きチャンネルを探す範囲を選ぶ	<b>BAND</b>	ALL/SBD
ボリュームが最小でも聞こえるようにする	<b>MINV</b>	ON/OFF
リモート機能を解除する	<b>REMT</b>	ON/OFF
ループ機能を使う	<b>LOOP</b>	ON/OFF
マイクの感度を設定する	<b>MICS</b>	H/N
デュプレックス保持時間を設定する	<b>DPXH</b>	OFF/1/2
レピーター保持時間を設定する	<b>RPTH</b>	OFF/3/5/8
外部機器をコントロールする	<b>OPT</b>	ON/OFF

※太字は初期の値です。(販売店での設定により表の初期値とは一致しないことがあります。)

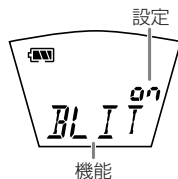
## 1 一度電源を切る

## 2 【P】 を押しながら 【⏻】 を押す

電源が入り、表示部にメニューが表示されます。

## 3 【F】 または 【P】 を押す

設定したい機能を選びます（44ページ参照）。



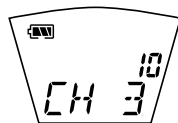
例：ランプ常時点灯

## 4 【△】 または 【▽】 を押す

設定を選びます。

## 5 【PTT】 を押す

設定を終了して、チャンネル表示に戻ります。  
なお、【PTT】のかわりに【⏻】を1秒以上押すと、設定を終了して電源が切れます。



### 販売店

販売店での設定により、お客様がファンクション設定の変更をおこなえない場合があります。

### 表示部の照明動作を設定する【*BLIT*】

この機能を「on(ON)」に設定すると、表示部の照明(バックライト)を常時点灯させることができます。「oFF(OFF)」に設定すると、表示部の照明は常に消灯します。初期の設定は照明が自動的に点灯/消灯する自動照明機能「Aut(AUTO)」になっています。

### 確認音を鳴らさないようにする【*BEEP*】

キー操作をしたときに鳴る確認音をピープ音といいます。この機能を「oFF(OFF)」に設定すると、このピープ音を鳴らさないようにできます。以下の警告音、予告音などはこの機能のON/OFFと関係なく鳴ります。

- バッテリー警告音
- 通信時間制限予告音
- APO 警告音
- 通話範囲外告知音
- 送信禁止音
- コールトーン
- レピーターアクセス音
- レピーターアクセスエラー音
- PLL アンロック音(無効音)
- 通話終了告知音(設定 ON 時のみ)

### 自動で電源を切る【*APQ*】

この機能を「on(ON)」に設定すると、1時間59分間キー操作が行なわれなかった場合、電源を切り忘れたとみなして告知音を鳴らします。さらに同じ状態が1分間続くと、自動で電源を切ります。

モニター中やオートチャンネルセレクト中はAPOは動作しません。本機をレピーターとして使用する場合など、DC電源端子にACアダプターを接続するときは、「oFF(OFF)」に設定してください。

### 運用モードを切り替える【*MODE*】

使用目的により、「SP(ノーマルモード)」、「Sdp(SDP)(レピーターアクセスモード)」、「Fdp(FDP)(同時通話モード)」および「SH(サイレントヒアリングモード)」から選択することができます。なお、双方の運用モードが違っていると通信はできません。

運用モードを切り替えると、チャンネル番号、グループ番号、オートチャンネルセレクト、スクランブルモードの各設定は、初期設定の状態に戻ります。

### VOXの感度を設定する【*VOX*】

周りの環境や声の大きさによって、VOX機能使用時のヘッドセットなどのマイクが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。「oFF(OFF)」の設定ではVOX機能はOFFになり、「1」～「5」ではVOX機能はONになり数値が大きいほどマイクの感度が高くなります。

## VOX 機能とは

【PTT】を押さなくても、マイクに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で受信待ち受け状態になります。なお、VOX機能を使用する場合はオプション(別売品)のイヤホン付きマイクロホン EMC-5F やヘッドセット KHS-21、HMC-3 または HMC-4 を使用してください。



- 本機単体での VOX 機能は動作しますが、周囲の音で誤送信することがあります。上記のオプションを使用してください。
- HMC-3 や HMC-4 を使用するときは、ヘッドセット側の VOX を OFF、感度調整ボリュームを最小にしてください。
- 別売品の SMC-34、EMC-2B、および EMC-3 は【PTT】を押さないとマイクが正常に動作しないため、VOX機能を使用することはできません。
- VOXは確認音が鳴っているとき、コールトーンが設定されているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- 電池容量が少なくなると、VOXは使用できなくなります。表示部の電池残量表示が減り始めたら早めにバッテリーパックを充電したり、新しい乾電池に交換してください。
- 信号を受信しているときは、送信できません。
- プライオリティ送信チャンネルでは、VOX 機能は動作しません。

## 会話の最後が途切れないようにする (VOX 遅延時間) **[V 遅延]**

VOX 使用時、会話の最後が送信されない場合があります。遅延時間を「03(0.3 秒)」～「30(3.0 秒)」に設定して、会話最後まで送信されるように調整してください。数字が大きいほど遅延時間が長くなります。

## スケルチレベルを調整する **[SCL]**

受信のしかたを変えるために、スケルチレベルを調整することができます。

スケルチレベルを下げる(3 → 2 → 1)と、弱い信号を受信できます。スケルチレベルを上げる(1 → 2 → 3)と、雑音が聞こえなくなります。スケルチレベルを「OFF(OFF)」にすると、常にスケルチが開いた状態になります(常時モニター)。

## 送信出力を切り替える【TXPWR】

1ch～18chバンドでは、送信出力を下げるができます。「L」に設定すると送信がローパワーの約1mWになり、「H」に設定に戻ると送信がハイパワーの約10mWになります。h1ch～h9chやノーマルモードでの運用では送信出力を下げることはできません。



- サイレントヒアリングモード中は「H」に設定しても、ローパワー送信になります。ローパワー送信は初期設定時は最大8時間です（販売店により1～12時間に設定を変更できます）。

## 自動で空きチャンネルを探す(オートチャンネルセレクト)【SCAN】

ノーマルモードでの運用時に使用できる機能です。グループで設定したチャンネルで通話ができない場合、自動で空いているチャンネルを探します。目印にグループ番号を使いますので、あらかじめ同じグループ番号を決めてグループモードを設定してください。

オートチャンネルセレクトを使う

- 1 設定を「on(ON)」にして、ファンクション設定を終了する
- 2 【Δ】または【▽】を1秒以上押す  
オートチャンネルセレクトが開始されます。
- 3 【PTT】を2～3秒押し続ける  
空いているチャンネルで10秒ほど停止するので、【PTT】を押したまま通常よりゆっくり呼びかけます。  
呼びかけが終わったら【PTT】から指を離し、相手の方がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。呼び出されると「受信」が点灯し、チャンネル番号が点滅します。
- 4 「受信」が消えてから、【PTT】押して応答する

オートチャンネルセレクトを解除する

スキャン停止中に【Δ】、【▽】または【F】を押す  
表示しているチャンネルで受信待ち受け状態になります。



- 応答は10秒以内に行ってください。10秒以上送信・受信がないと、オートチャンネルセレクトを再開します。



- オートチャンネルセレクト中にモニター機能<→36ページ>をONにするとスキャン中のチャンネルをモニターできます。



### 自動で空きチャンネルを探す範囲を選ぶ【*BAND*】

「オートチャンネルセレクト」を使用する時に、スキャンするチャンネル範囲を設定します。この機能を「AL(ALL)」に設定すると1ch～11chとh1ch～h9chの2つのバンドを、「Sbd(SBD)」に設定すると現在のバンド内のみスキャンします。

### ボリュームが最小でも聞こえるようにする【*MINV*】

この機能を「on(ON)」に設定すると、ボリュームを最小にしても、受信音やビーブ音が聞こえるようにできます。誤って音量ツマミを絞り、受信音やビーブ音を聞き逃すことを防ぐことができます。

### リモート機能を解除する【*REMT*】

スピーカーマイクホン(SMC-34)のリモートキー（【1】、【2】、【3】）に機能を割り当てているときに、誤って押しでも動作しないようにできます。「oFF(OFF)」に設定するとリモートキーが動作しなくなり、「on(ON)」に設定するとリモートキーが動作します。

### ループ機能を使う【*LOOP*】

同時通話モード時に動作する機能で、「on(ON)」に設定すると、同時通話の会話を第三者が聞くことができます。第三者は同時通話モードでチャンネル、およびグループ番号を合わせる必要があります。なお、この機能は最初に【PTT】押した人のみ動作します。



- ループ機能を動作させると、自分の声が大きく聞こえることがあります。このようなときは、自分のマイク位置やマイク感度(EMC-5F)を調整して声の大きさを下げてください。

### マイクの感度を設定する【*MICS*】

相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは、「H」に設定すると、マイクの感度を高くすることができます。

### デュプレックス保持時間を設定する【*DPXH*】

同時通話モード時に通話が途切れやすいときは「1(1秒)」または「2(2秒)」に設定します。

### レピーター保持時間を設定する【*RPTH*】

レピーターアクセスモード時に通話が途切れやすいときは「3(3秒)」、「5(5秒)」、「8(8秒)」に設定します。

### 外部機器をコントロールする【*OPT*】

設定条件に一致すると、マイクジャックの3M端子からアクティブレベルを出力します。通常は「oFF(OFF)」に設定してください。

# その他の機能



次のような機能もあります。これらの機能は販売店においてのみ設定可能です。

## セレコール

グループ、ID No.、ネーム、ステータスメッセージの登録。

## データ送出遅延時間

送信を開始してからデータの送出を開始するまでの時間を設定。

## モードリセットタイマー

セレコールリストやステータスメッセージ表示を自動的に終了する時間の設定。

## バッテリーセーブ

電池の無駄な消費を防ぐための機能を ON / OFF できます。

## コンパング

雑音を抑えて、音声のみを明瞭にする機能です。使用する場所の周りが騒がしく、音声聞き取りにくい場合に設定します。この機能を使用するには、送信局側と受信局側双方がこの機能を設定する必要があります。

## レピーターアクセスタイプ

使用するレピーターの機種により、アクセスタイプを設定します。

## コールトーン 3-1 / 3-2

本機の【P】キー、またはマイクロホンの【1】、【2】、【3】のどれかに、コールトーン 3-1 / 3-2 を割り当ててあるときにそのキーを押すと、コールトーンを送出することができます。

## コールトーン音色変更

コールトーン 1 / 2 で出力されるコールトーンの音色を変更することができます。

## モニター動作

モニター動作をモーメンタリーとトグルタイプから選択します。

## 通話終了告知

レピーターアクセスモード時に自局の送信が終了したことをビープ音で相手に知らせることができます。

## スーパーキーロック

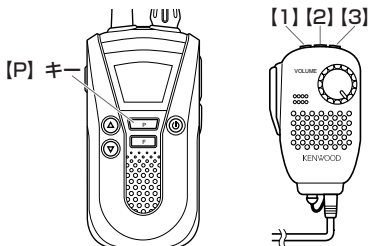
【**ON**】と【PTT】キー以外のキーをロックする機能です。この機能が設定されていると、電源を入れた時に「LOCK」と約2秒間表示されます。なお、キーの操作でこの機能を解除することはできません。また、電源を入れ直してもこの機能を解除することはできません。

## プライオリティー送信

通常使用するチャンネルとは別に特定の設定したチャンネルを【P】キーに設定して、ワンタッチで送信する機能です。

## キー割り当て (【P】キー/リモコンキー)

本機の【P】キーとスピーカーマイクロホン(SMC-34)のキー (【1】、【2】、【3】) に、機能を割り当てることができます。

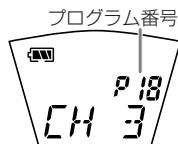


## プログラマブルメモリー

プログラム番号ごとに、運用モード、チャンネル、グループ番号、セレコール機能、レピーターアクセスモード、およびプライオリティー送信チャンネルの指定を行えるモードです。(メモリーネームも登録できます。)

### 用途

チャンネルごとにセレコールを設定して、個別/一斉呼び出しが容易に変更できます。

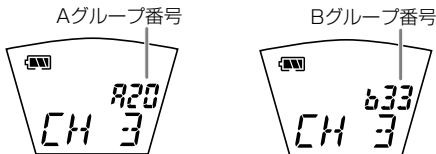


## オプションコントロールタイプ

マイクジャックの3M端子からアクティブレベルを出力するための、コントロールタイプを選択します。

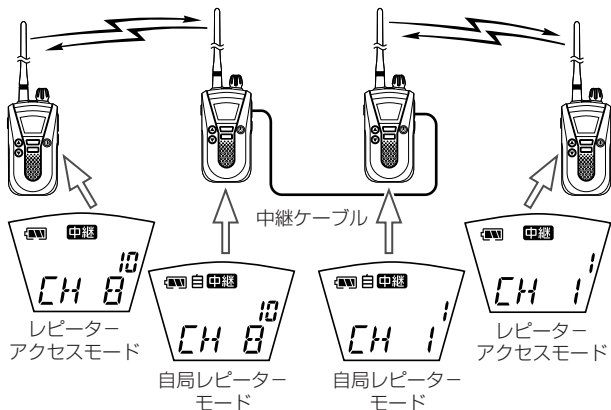
## 2面待ち機能

ノーマルモードでの運用で、A/B2つのグループを待ち受けできる機能です。2つのグループ番号に対して、個別、一斉呼出を行いたいときに使用します。本機の【P】キーにグループBを設定すると、2面待ちがONします。



## 連結レピーターモードについて

使用する場所が仕切りなどにより電波が届きにくい場合や同時通話モードのレピーターとして使用するとき、2台のトランシーバーを中継ケーブルで接続して、連結レピーターにします。(中継ケーブルは販売店にお問い合わせください。)



- 連結したトランシーバーの同士の距離は30 cm以上離してください。距離が近いと混信する場合があります。

# 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください<→55ページ>。

## 運用モード共通

症状	原因	処置	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源が入らない</li> <li>音量を大きくすると「ブー」という音がする</li> <li>表示がすぐ消える</li> </ul>	電池が消耗している	充電する	16
		予備の電池パックや新しい乾電池と交換する	14 15
<ul style="list-style-type: none"> <li>受信できない</li> <li>音量つまみを回しても音が出ない</li> </ul>	【PTT】が押されて送信中になっている	【PTT】を離す	25
	グループ番号がちがう	グループ番号を相手と同じにする	32
相手と通話できない	運用モードが違っている	相手と同じ運用モードにする	26 46
	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	24 32
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	11
	セレコールのIDが違う	セレコールのIDを合わせる	39
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている	キーロックを解除する	37
キーの操作ができない。	スーパーキーロックが設定されている	スーパーキーロックの解除は販売店にお問い合わせください	51
送信ができない	「受信」が点灯している	チャンネルを変更するか、「受信」消えるのを待つ	24
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	設定をAUTOまたはOFFに切り換える	46
電池がすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	46
聞き取れない音声が入ったり、何も聞こえないのに「受信」に点灯する	スクランブルモードで通話しているグループがいる	そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更する	24 32
	同じチャンネルでのグループ番号を使っているグループがいる		
チャンネルセレクトを止められない	キーロックになっている	キーロックを解除する	37

その他

故障かな？と思ったら

故障かな?と思ったら

## 同時通話モード使用時

症状	原因	処置	参照ページ
送信できない	イヤホン付きマイクロホンやヘッドセットが接続されていない。	イヤホン付きマイクロホンやヘッドセットを接続してください。	27

## レピーターアクセスモード使用時

症状	原因	処置	参照ページ
レピーターにアクセスできない	アクセスエラー音が鳴らない ・運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	運用モードをレピーターアクセスモードに設定する	46
	アクセスエラー音が鳴る ・チャンネル番号、グループ番号がレピーターの番号と違っている ・レピーターとの距離が離れすぎている	チャンネル番号、グループ番号をレピーターの番号と合わせる	29 32
		通話のできる距離を目安に通話する	11
相手と通話できない	相手が運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	運用モードをレピーターアクセスモードに設定する	46
	相手のチャンネル番号、グループ番号が違う	グループ内のトランシーバー、レピーターはすべて同一のチャンネル番号、グループ番号に統一する	29 32
	セレコールのIDが違う	セレコールのIDを合わせる	39

その他

故障かな?と思ったら

## 初期設定の状態に戻す(オールリセット)

設定されている内容はすべて消去され、購入時の設定状態に戻ります。

### 1 一度電源を切る

### 2 【△】と【▽】を押しながら【⓪】を押す

表示が全点灯します。



### 3 【△】、【▽】、【⓪】から指を離す

「SURE」と表示されます。

リセットを止めたい時は、【P】または【F】を押します。現在の設定に戻ります。



### 4 【PTT】を押す

ビーブ音が鳴ってリセットされます。  
購入時の設定状態に戻ります。

その他

故障かな?と思ったら



- スーパーキーロックが設定されている場合は、リセットの操作はできません。

# オプション(別売品)について

本機には、次のようなオプション(別売品)が用意されています。

- EMC-2B ..... イヤホン付きクリップ型マイクロホン
- EMC-3 ..... イヤホン付きクリップ型マイクロホン
- EMC-5F ..... イヤホン付きクリップ型マイクロホン
- KMC-21 ..... スピーカーマイクロホン
- HMC-3 ..... VOX、PTT 付きヘッドセット
- HMC-4 ..... リモコン対応 VOX/PTT/TOT 切換式ヘッドセット
- HS-9 ..... プチ型イヤホン
- KHS-21 ..... ヘッドセット
- SMC-34 ..... リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン
- UPB-4L ..... リチウムイオンバッテリーパック(3.6V 1200 mAh)
- USC-12 ..... ソフトケース

その他

オプション(別売品)について



- 同時通話モードでは EMC-5F、KHS-21 のみ使用できます。その他のオプションを接続しても正しく動作しません。



- 製品名のあとに(G)、(C)と表記されてる商品がありますが、これらも表記の無い商品と同一製品です。
- 本機に使用できるオプション製品が追加されたり、生産が終了することがあります。オプション製品についてはカタログ等を参照してください。



## イヤホン付きマイクロホン(EMC-5F)について

- PTTスイッチ

押しながらLOCK方向にスライドすると、誤ってPTTスイッチ押しで同時通話が終了してしまうことを防ぐことができます。



- マイク感度の切り替えスイッチ

使用状況に応じてマイク感度を切り替えてください。マイク感度はH(感度高)/M(感度中)/L(感度低)の三段階で切り替えられます。



## スピーカーマイクロホン(SMC-34)について

- PTTスイッチ

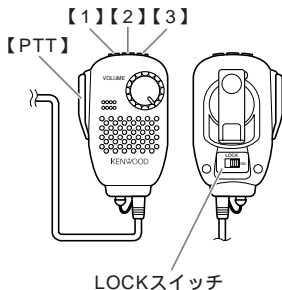
送信するとき、このスイッチを押しながら話します。

- LOCKスイッチ(背面)

このスイッチをONにすると、マイクだけの機能になり、【1】～【3】のスイッチは使えなくなります。お買い上げ時は、LOCKスイッチの位置が「ON」になっています。

- 【1】、【2】、【3】

本体の機能を割り当てることができます<→51ページ>。



その他

オプション(別売品)について

# 保証とアフターサービス (よくお読みください)

## 保証について

### ● 保証書 (別添)

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

### ● 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より **1年間** です。

## 修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(53ページ)を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。(別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。)

修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様御自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

### ● 保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。

修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因(衝撃や水分、異物の混入など)による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

・補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

### ● 持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

### ● 修理料金の仕組み (有料修理の場合は次の料金が必要です)

**技術料:** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。

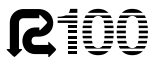
**部品代:** 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

# 仕様

チャンネル数	47 ch (ノーマルモード：1～11 ch、h1～h9 ch レピーターアクセスモード/自局レピーターモード/ 同時通話モード：1～18 ch、h1～h9 ch)
送受信周波数	ノーマルモード (12.5 kHz ステップ) 422.2000～422.3000 MHz 422.0500～422.1750 MHz レピーターアクセスモード (12.5 kHz ステップ) 受信：421.8125～421.9125 MHz 送信：440.2625～440.3625 MHz 受信：421.5750～421.7875 MHz 送信：440.0250～440.2375 MHz 自局レピーターモード (12.5 kHz ステップ) 送信：421.8125～421.9125 MHz 受信：440.2625～440.3625 MHz 送信：421.5750～421.7875 MHz 受信：440.0250～440.2375 MHz 同時通話モード (12.5 kHz ステップ) 送信/受信：421.8125～421.9125 MHz 440.2625～440.3625 MHz 送信/受信：421.5750～421.7875 MHz 440.0250～440.2375 MHz
電波型式	F2D/F3E
周波数安定度	± 4 ppm
消費電流	受信時 (低周波出力 45 mW 時) ..... 130 mA 以下 送信時 (送信出力 10 mW 時) ..... 85 mA 以下 受信待ち受け時 ..... 75 mA 以下 バッテリーセーブ時 (平均値) ..... 25 mA 以下
使用温度範囲	- 10 °C～+ 50 °C
電源電圧	リチウムイオンバッテリー端子：DC 3.8 V 乾電池端子：DC 4.5 V DC 電源端子：DC 5.5 V
送信出力	約 10 mW (ローパワー送信時 約 1 mW)
低周波出力	45 mW 以上 (8 Ω 負荷時)
寸法 (突起物含まず)	幅 57.0 × 高さ 108.6 × 奥行 28.5 mm アンテナ長 183 mm
質量 (重さ)	約 155 g (付属バッテリーパックを含む) 約 165 g (単四アルカリ乾電池 x3 を含む)

その  
他

仕  
様



古紙配合率 100%再生紙を使用しています。

# KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525 東京都八王子市石川町2967-3

- 商品に関するお問い合わせはカスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル 0570-010-114

(一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です)

携帯電話・PHS・IP電話からは、045-933-5133

FAX 045-933-5553

住所 〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2

受付時間 9:00~18:00

(土、日、祝祭日および当社休日は休ませていただきます)

- アフターサービスのお問い合わせは、お買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・サービスセンターにご相談ください(別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください)。